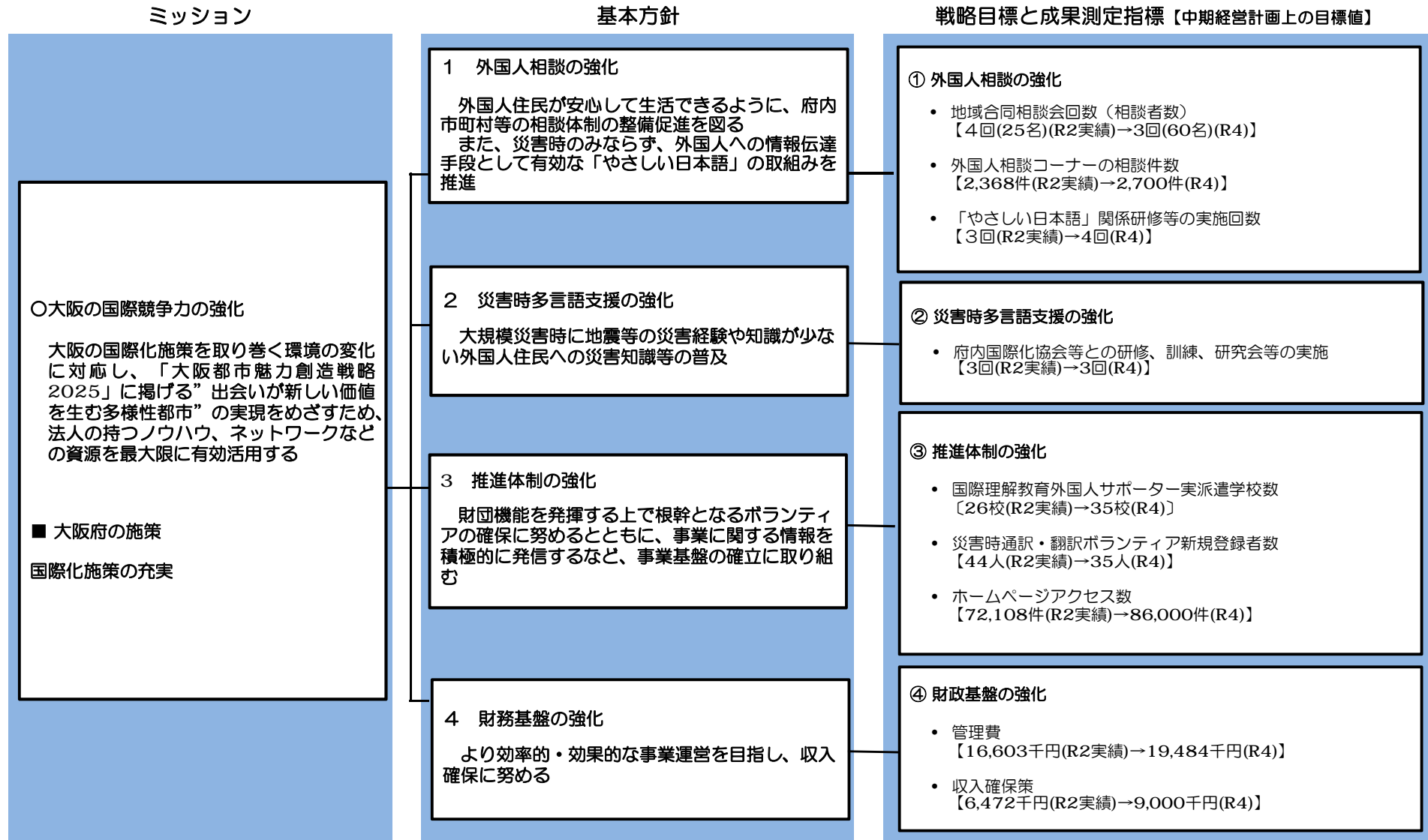


法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
作成（所管課）	府民文化部 都市魅力創造局 国際課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和3年度の経営目標達成状況及び令和4年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 【見込値】	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (H30～R4)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R4 目標値	最終年度 目標値	
① 外国人相談の強化	地域合同相談会開設回数 (相談者数)		回 <人>	30	4 <25>	4 <50>	10 <51>	10 <60>	30	3 <60>	3 <60>	長引く新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインでの相談会も定着しつつあり、R4年度は対面での相談会の開催をベースにしつつ、引き続きオンラインでの開催も活用し、相談回数は中期経営計画を上回る昨年実績同値の10回、相談人数は中期経営計画の60名とする目標達成を目指す。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重要とする理由、 経営上の位置付け	○中期経営計画の重点化事業として掲げた「外国人相談の強化」の具体的なプログラムとして、「地域合同相談会相談者数」及び「地域合同相談会開設数」をあげている。											
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○外国人住民が安心して生活するには、地域に密着した基礎自治体において、一次的な相談や情報提供を行うことが望ましい姿であり、当財団においては、従前から府内の市町村等と共催して「外国人一日相談会」を実施してきたが、開催時間が短時間にとどまる、相談対象者が共催市町村の在住者に限定されるなどの課題があったため、より効果的・効率的な事業をめざし、複数の市町村や行政書士等の専門家が参加する「地域合同相談会」を実施することとした。</p> <p>○一方、府内市町村外国人相談窓口の充実や、当財団の相談窓口における相談時間の拡充、専門相談の提供などによる日常的な相談体制の強化で在住外国人のニーズが一定満たされるなど、一日相談会へのニーズにも変化が見られる。</p> <p>○令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえ、実施期間に幅を持たせることが可能なオンラインも活用しつつ、対面での相談会をベースに、ニーズの高い専門分野の相談等に重点的に取り組む。</p>											
活動方針	<p>○外国人の受入促進・活動環境整備には通常の外国人情報コーナーでの取組みとともに、外国人府民が居住する身近な市町村での取組みが重要である。</p> <p>○このため、市町村における外国人相談窓口の普及・定着を目指すとともに、在住外国人のニーズに沿った相談会の実施・共催に取り組む。</p>											

法人名	公益財団法人大阪府国際交流財団
-----	-----------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 〔見込値〕	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (H30～R4)		R4目標設定の考え方 (数値の補換) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R4 目標値	最終年度 目標値		
② 外国人相談の強化	外国人情報コーナーの相談件数		件	10	2,368	2,400	×2,312	2,700	10	2,700	2,700	中期経営計画最終年度でもあり、見直し時に掲げた目標値2,700件を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○在住外国人を対象にした相談業務を実施 ○市町村での相談窓口サポート ○希少言語(英・中・韓以外)への対応強化 ○ウクライナ避難民に関する相談業務を実施
	「やさしい日本語」関係研修等の実施回数		回	10	3	4	4	4	10	4	4	新型コロナウイルス感染症の影響が長引いているが、開催方法を工夫し、少なくとも中期経営計画の目標達成を目指す。(情報共有や実践的な研修を年4回実施)	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の壁のハードルを下げるため、外国人との交流や情報提供手段として有効な「やさしい日本語」普及への取組みを引き続き実施
③ 災害時多言語支援の強化	府内国際化協会等との研修、訓練、研究会等の実施		回	10	3	3	3	3	10	3	3	中期経営計画の最終年度でもあり、災害関係会議を含め、目標に掲げた3回の開催を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模災害時における相互応援体制の構築 ○ガイドブックを活用した市町村向け研修 等
④ 推進体制の強化	国際理解教育外国人サポーター派遣校数<新規開拓学校数> ※()内はR2年度まで指標として設定		校	10	26 <10>	20	37	↓35	10	---	---	R3年度は、学校行事の代替として学校現場からの申出が増勢で推移。R4年度は行事再開が予想され増勢が続くが不明であり、新型コロナウイルス感染症の影響も予断を許さないことから、R3実績を踏まえ35校とする。	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人留学生等をサポーターに登録し、国際理解教育授業の講師として派遣
	災害時通訳・翻訳ボランティア新規登録者数		人	10	44	35	41	↓35	10	35	35	新型コロナウイルス感染症の影響が長引き活動の見直しは不透明だが、中期経営計画の最終年度でもあり、見直し時に掲げた目標35人の目標達成を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ○災害ボランティアへの登録促進
	ホームページアクセス数		件	5	72,108	86,000	×85,410	86,000	5	86,000	86,000	新型コロナウイルス感染症の影響のため活動の見通しが不透明だが、中期経営計画の最終年度でもあり、掲げた86,000人の目標を諦めずに目標達成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ユーザー(外国人相談者)にとって魅力のあるホームページ作りに注力するとともに、SNSやメールマガジンなどを活用した積極的な情報発信を行う

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

⑤ 財務基盤の強化	管理費		千円	5	16,603	19,848	[19,432]	19,101	5	19,484	19,484	中期経営計画の最終年度でもあり、見直し時に掲げた管理費を予算額とした。	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、運営コスト抑制の取組みを強化する
	収入確保策		千円	10	6,472	9,000	×6,666	9,000	10	9,000	9,000	中期経営計画の最終年度でもあり、目標に掲げた収入確保策の目標達成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○補助金、委託金、交付金等の獲得 ○協賛金・寄付金の獲得による上乗せを図る

【凡例】

- ・ ↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・ []内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・ ()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人 大阪府国際交流財団

CS調査の実施概要

○令和3年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
グローバル人材の育成の基本事業である外国人サポーター派遣事業について、OFIXが提供する内容への満足度を調査	アンケート方式	外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施する学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒	37団体	各事業終了後

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
令和3年度に外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施した学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒を対象に実施したアンケートの結果、「大変満足」「満足」と回答したものが、95.2%であった。	<p>（結果を踏まえ実施した取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回収時に各学校からの要望等を聞くとともに、実施にあたっては学校のニーズになるべく応えるように努め、事業の魅力向上を目指し対応している。 ・また、毎年各市町村等へパンフレットを配布し、事業の周知に努めるとともに、財団ホームページにおいても事業の概要や派遣依頼申込書を掲載するなど、利用促進に取り組んでいる。 ・コロナ禍での実施についても、遠隔授業や映像教材の提供など、新しい授業形式で対応しており、事前打ち合わせ等、利用者ニーズの把握に努める。 <p>（今後実施予定の取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のため、体験型授業は依然として難しい状況下ではあるが、国際理解教育の実施校（教員）と児童・生徒を対象にアンケートを実施し、「大変満足」「満足」との回答の合計について、今年度同様の90%以上を目指す。

○令和4年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
グローバル人材の育成の基本事業である外国人サポーター派遣事業について、OFIXが提供する内容への満足度を調査	アンケート方式	外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施する学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒	35団体	各事業終了後

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府国際交流財団

{ 1 }

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
外国人情報コーナーの相談件数	件	2,400	2,312	▲88件

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応	
①	相談件数の減	<p>・新型コロナウイルスの流行や政府の水際対策により、在留外国人数は若干減少しており（令和2年末 約289万人→令和3年末 約276万人、約4.5%減・いずれも全国）、大阪府内の在留外国人数も同様の傾向にあると考えられることから、相談件数にも影響を与えたと考えている。</p> <p>・なお新型コロナ関連の相談については、影響が長期化し、情報の浸透が進むとともにワクチン接種も進んだことから、相談件数には落ち着きが見られていた。しかし、第6波で感染者が急増すると、コロナ関連の相談件数も増加に転じ、その結果、令和2年度の671件から、令和3年度は991件と増加している。全体の相談件数はこの影響もあり、2,312件を数えたが、入管手続や通訳・翻訳に関する相談等が減少したため、中期経営計画の目標には若干及ばなかった。</p>						<p>・最近も、ウクライナ避難民への支援に係る相談が相次いでいるが、こうした時勢に応じた相談対応、情報提供及び相談窓口の周知に努めて参る。</p>	
	項目名	相談件数	R3当初想定値	2,400件	実績値	2,312件	差		
②									
	項目名		R3当初想定値		実績値		差		
③									
	項目名		R3当初想定値		実績値		差		

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
-----	------------------

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
ホームページアクセス数	件	86,000件	85,410件	▲590件

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツの魅力不足 ホームページの告知不足 SEO対策不足 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの情報発信量や更新頻度が少なく、ユーザーから見た魅力的なコンテンツが不足している。 SNS等を利用しているものの、在住外国人ユーザーとミスマッチが生じている。 SEO対策が不足しており、検索順位が劣位となっている。 						<ul style="list-style-type: none"> ユーザー（在住外国人）のニーズに沿った生活情報に関連するFAQの情報発信やコンテンツを充実化させる。 ユーザーの利用頻度の高いSNSの活用、利用者目線でのメールマガジン等による情報発信を行い、HPへの誘導を強化する。 専門家の意見を取り入れ、SEO対策を充実・強化する。
	項目名	アクセス数	R3当初想定値	86,000件	実績値	85,410件	差	
②								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府国際交流財団

[3]

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
収入確保策	千円	9,000	6,666	▲2,334

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	・補助金、委託金、交付金の増額及び協賛金、寄付金の獲得による上乗せが不足	・前年度(令和2年度)実績(6,472千円)は超過できる見込みであるが、大幅増となった目標(前年比3,000千円増)には届かない見込み。30件程度のアプローチを想定していたが、マンパワー不足もあり、実際のアプローチは10件程度となり、大幅な目標増に相応するアプローチ量の増が図れなかった。						引き続き、受取補助金・受取委託金・受取負担金等の獲得に加え、協賛金・寄付金の獲得に向け、適切な役割分担を行い、アプローチの総量増により、増収を図る。
	項目名	収入額	R3当初想定値	9,000千円	実績値	6,666千円	差	
②								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
-----	------------------

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
地域合同相談会開設回数	回 (人)	10 <51>	10 <60>

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>長引く新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインでの相談会も定着しつつあり、R4年度は対面での相談会の開催をベースにしつつ、引き続きオンラインでの開催も活用し、相談回数は中期経営計画を上回る昨年実績同値の10回、相談人数は中期経営計画の60名とする目標達成を目指す。</p>
-----------------------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
やさしい日本語関係研修等の実施回数	回	4	4

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響が長引いており、今後の事業実施の見通しも不透明さを残すが、オンラインの活用をはじめ、開催方法を工夫し、少なくとも、中期経営計画の目標達成を目指す。</p>
-----------------------------------	--

法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
-----	------------------

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
府内国際化協会等との研修、訓練、研究会等の実施	回	3	3

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症を災害ととらえた多言語支援等に関する情報交換や研修等をオンライン形式等で実施した。 ・講義形式の研修等についてはオンライン開催が可能だが、本来重視している実習やワークショップ形式の研修等はオンラインでは対応できないものもある。 ・令和4年度も新型コロナウイルスの影響が続くことが予想されるため、少なくとも、中期経営計画の目標達成を目指す。
-----------------------------------	--

〔4〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
災害時通訳・翻訳ボランティア新規登録者数	人	41	35

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア人材登録については、関西大学、追手門学院大学、大阪大学と協定を締結するなど、ボランティア確保に努めている。 ・令和3年度は、令和2年度に引き続き、活動を休止した観光ボランティアからの移行もあり、年度前半に新規登録者数の押し上げ効果により、目標値を上回った。 ・令和4年度は観光ボランティアからの移行増も見込めず、また、長引く新型コロナウイルス感染症の影響もあり、活動が限定的になると予想されるため、少なくとも中期経営計画の目標値である35人の達成を目指す。
-----------------------------------	---

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
国際理解教育外国人サポーター派遣校数	校	37	35

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<p>・令和3年度は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校行事が中止・休止となり、その代替として、国際理解教育授業の引き合いが増え、派遣校数も増勢で推移した。令和4年度は、通常の対面授業や学校行事も再開されることが予想され、その反動もあって、令和3年度並みに増勢が続くかどうかは不明。</p> <p>・令和4年度の目標値については、令和3年度の実績を踏まえつつ、新型コロナウイルス感染症の影響についてはなお予断を許さないことから、35校とする。</p>
-----------------------------------	---

〔6〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
/			

マイナス (現状維持) 目標の考え方	/		
-----------------------------------	---	--	--